

社団法人茅ヶ崎青年会議所
行 動 指 針



2007年度改訂版

ビジョン

みんなが集まるオシャレな海辺のまち



ビジョンを目指したまちづくり

1. 茅ヶ崎らしさ、ならでは、を検討したまちづくり
2. 誇りと愛情を育む まちづくり
3. 未来を見据えたまちづくり

JAYCEEとしての スキルアップ

1. JAYCEEとしての志
2. JAYCEEとしての能力
3. JAYCEEとしての知識

まちづくりに 必要な組織力

1. まちづくりの組織として
2. 会員拡大
3. JCのコミュニケーション
4. ネットワークを築くための積極的な取り組み

はじめに

社団法人茅ヶ崎青年会議所（以下茅ヶ崎JC）では、中長期的に見た運動の方向性を示す道標として3ヵ年基本計画が1984年より、6期18年間に渡り運用されてまいりました。

この基本計画は、青年会議所が掲げる不变の基本テーマである「明るい豊かな社会の実現」と「社会と人間の開発」のもと、その時々の時代の要請に対応して、我々が中長期的にどのように活動して行くべきかを示す指針として活用されてきました。そして、

茅ヶ崎JCが、有機的かつ効率的に運動を展開すべく、向うべき将来を見据えた基本計画として位置付けられてまいりました。

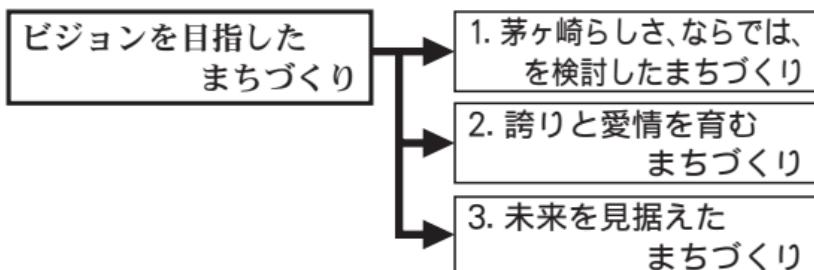
その基本計画を受け継ぐ指針として2002年度に行動指針が策定されました。この時期は、日本社会全体で、経済不安が叫ばれ、従来の経済システムが大きな変革を迫られた時代であり、JCにとっても会員数の減少など厳しい時代でした。行動指針は、そのような状況下で、メンバーの意識の欠落や活力の低下している事態を乗り越えるため、全メンバーの心を一つにして、中長期的にみた運動展開をするための指針として策定されました。

そして2007年度は、行動指針が施行されて4年の月日が経過しました。現在、大きな不況から脱却した日本社会には、青少年の犯罪、経営者のモラルを逸脱した行為、様々な格差の問題など、新たな課題が多く持ち上りました。JCが明るい豊かな社会を作るため大切なこととして、倫理道徳教育をはじめ、市民の意識を変革していくことが叫ばれています。そして、世の中で起こっていることを自分自身の事と捉え、正面から世の中に向き合っていくことが地域のリーダーとしての我々のあるべき姿と考えます。

2004年度に策定された新たなビジョン「みんなが集まるオシャレな海辺のまち」を目指すために、こうした背景も踏まえ、2002年度に策定された行動指針が現在の茅ヶ崎JCを取り巻く環境と内容が合致しているかを今一度見つめ直す時期であると判断し、検証、検討を重ね改訂に至りました。

今回改訂する行動指針は、2002年度に策定された行動指針の礎の基、JC運動をより地域に発信していくための指針として新たなスタートを切ります。この行動指針は、ビジョン実現に向けた道標として、茅ヶ崎JCの近未来を見据えたまちづくり運動の方針性を示しています。そして、そのためには必要な、我々JAYCEE「個人」としての志・能力・知識、また、茅ヶ崎JCという「組織」として運動に取り組む姿勢や組織運営の在り方についての指針を掲げています。この行動指針を活用して、各個人のスキルアップを図り、茅ヶ崎JCの組織力を強化し、「みんなが集まるオシャレな海辺のまち」の実現に向けて、我々の夢や希望という大きなエネルギーを最大限に引き出し、まちづくり運動を推進していきましょう。

ビジョンを目指したまちづくり



J Cが行うまちづくりは、地域社会を発展させ、開発していくことがその基盤となります。茅ヶ崎 J Cとして行うまちづくりは、茅ヶ崎に誇りと愛情を持ち、「茅ヶ崎らしさ」にこだわった、茅ヶ崎ならではのまちづくりです。また、未来を見据えたまちづくりを行っていくためには、メンバー自らが地域の課題や諸問題について自分自身のこととして捉え、このまちの主権者であるという意識をもち、その意識を多くの地域の方々に伝えていくことが必要不可欠です。社会の現状を捉えたとき、我々の行うべきまちづくりは、こうした市民意識の変革が重要でしょう。

茅ヶ崎らしさって？それは人によって捉え方も様々です。そこで「茅ヶ崎らしさ」について、誰もが共通の認識を得られるような、まちのアイデンティティーを確立することが望まれます。それを確立することで、我々がどのような点に着目し、行動していくべきかが、自然と見えてくるはずです。また、その長所を伸ばしていくことで、より魅力が溢れ、誇りと愛情の持てる茅ヶ崎になっていくことでしょう。

そのためにも我々は、まちづくりを行う J AYCEE（メンバー）としてそれに必要な 志・能力・知識等を、まちづくりの実践や研修を通じてしっかりと習得し、自らを高め、そこから得られたことを再び実践に活かしていく。すなわち、奉仕の心を持ち、継続的な修練を重ねていく必要性があります。

そして、その J AYCEE の集合体である組織は、同じ志を持ち、共通の目的に向かい議論を重ね、組織の拡大と更なる発展を目指し、そして、友情を持って、一丸となり邁進して行くことが大切です。

茅ヶ崎アイデンティティー

我々がまちづくりを行う中で「茅ヶ崎らしさ・ならでは」ということを考えることはとても大切なことです。それらを、地域の方々が、少なくとも我々が認識できて、はじめて、茅ヶ崎アイデ

ンティティーが確立したと言えるでしょう。そのためにも我々は「茅ヶ崎らしさ・ならでは」ということを常に検討する機会を設けることが必要です。また、同時に事業を行うことで改めて再認識することも大切です。

更に、茅ヶ崎の魅力を検討することで、我々が何をするべきか、どんなことが出来るのか、が見えてくるはずです。例えば、「海」「音楽」「ハワイ文化」は、茅ヶ崎には欠かせない長所的要素の一つであり、茅ヶ崎ＪＣでも、多くの取り組みがされてきました。また、その他にも、多岐の分野にわたって、様々な取り組みがされてきました。過去に取り組んだことから、蓄積してきたノウハウやネットワークを、現在から未来にわたって、活用できるということは茅ヶ崎ＪＣという組織の優れた特長でもあります。その特長を活かし、茅ヶ崎アイデンティティーを検討したまちづくり運動を展開します。

1、茅ヶ崎らしさ・ならでは、を検討したまちづくり

「茅ヶ崎らしさ・ならでは」を考える為に、定期的な検討の機会があることが望れます。これまでに、茅ヶ崎ＪＣでも様々なまちづくり事業が行われています。「故きを温ねて新しきを知る」といった温故知新の概念の基、過去を学び、今後のヒントとし、そこに新たな要素を付加し、具現化してゆくことは、「茅ヶ崎らしさ・ならでは」を確立する上で、非常に重要な事柄です。言い換えれば、過去の検証、伝統の継承、新たな魅力の創造等を検討したまちづくり事業の展開が、非常に重要であると言えます。

また、茅ヶ崎ＪＣの持つ広範なネットワークを活かし、情報を収集、集約することで、地域の方々の意見を反映した、「茅ヶ崎らしさ・ならでは」を確立することにもつながるでしょう。

2、誇りと愛情を育むまちづくり

我々がまちづくり運動を行っていくには、先ず自らが茅ヶ崎を誇りとし茅ヶ崎を愛する心が必要です。そのような姿勢で事業を行うことにより、茅ヶ崎にとって本当に良いまちづくりに繋がるのです。

更に、その様な想いを持って、継続的にまちづくり事業を行っていくことで、より多くの地域の方々が自らの暮らすまちに誇りと愛情という愛郷心を持てるようになるでしょう。また、それと同時に、対外的にも茅ヶ崎の誇れる魅力を積極的に発信することで、結果的に同じ愛郷心を持つ人が増え、まちの活性化にもつながるでしょう。

すなわち、我々は「茅ヶ崎アイデンティティー」が確立するまでの間、「茅ヶ崎らしさ・ならでは」を十分に検討した上で、誇りと愛情を持って継続的にまちづくり事業を行っていくことが必

要です。

3、未来を見据えたまちづくり

我々は、このまちや、そこに暮らす人々の未来についても様々な議論を重ね、まちづくりを行っていく必要があります。ビジョンの実現、そして、明るい豊かな社会を築く為にも、未来を見据えたまちづくりは必要不可欠です。そのためには、メンバー自らがこのまちの主権者であるという意識をもち、地域のことについて自分自身のこととして関心を持ち、その意識を多くの地域の方々に伝えていくことが必要不可欠です。行政の施策に対する提案や地域の方々の意識を変えるという運動が、青年会議所ならではの運動と言えるのではないでしょうか。その点において、今後、より重点をおくべき項目として、青少年の未来を考えた教育問題や倫理・道徳観を養うという観点からの意識変革や、OMO I YAR I 運動の推進が挙げられます。

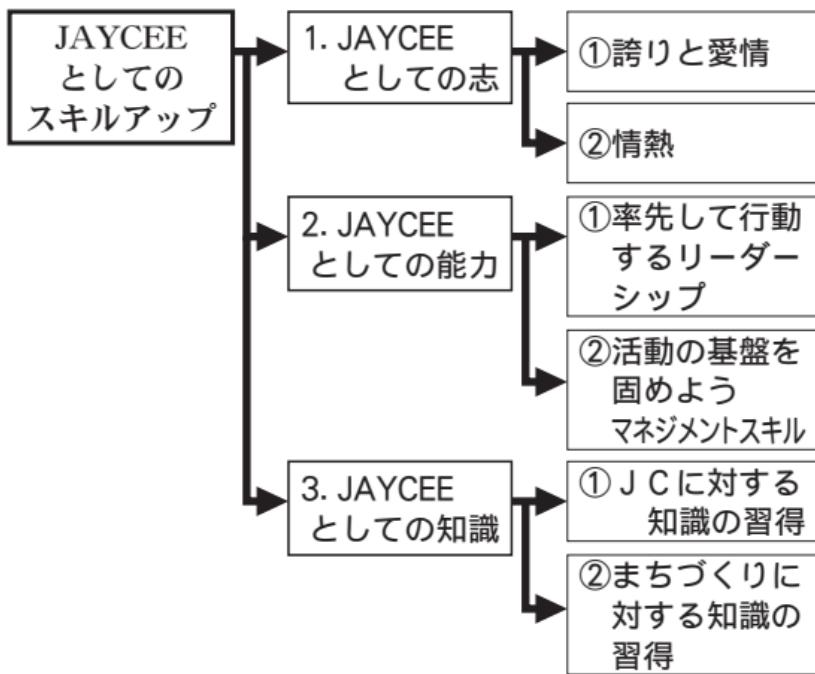
2007年度に開催された市長選公開討論会のように、参政権の大切さを訴えていく中で市民意識を高める運動も有効です。また、少子高齢化問題、市民が安心して暮らせるためのまちづくり、環境問題など、時代の変化に伴い生じる様々な課題や諸問題についても、その中身を認識し、どのようなアプローチで意識変革をしていくかをよく議論した上で、課題の実現、問題の解決に向けていく姿勢が大切です。そのためには、行政や関係諸団体に対し、積極的な協働を働きかけ、まちづくりを行っていくことが大切です。現に、日本JCにおいても、これらの課題や諸問題等に対して積極的な取り組みがなされています。茅ヶ崎JCでも、更に発展した取り組みをしていくことは、このまちに誇りと愛情を育み、茅ヶ崎アイデンティティーの確立を目指す上で重要な要素でしょう。

我々は、未来を見据えたまちづくりを積極的に行っていきます。やがて訪れる茅ヶ崎の未来が、愛郷心と魅力溢れる素晴らしいまちとなるために。

そして、茅ヶ崎JCの未来に、輝かしい伝統を、残して行くために・・・。

※社団法人日本青年会議所が取り組む「OMO I YAR I」運動
「OMO I YAR I」とは、日本古来から受け継がれ、文化として持っている高潔で徳高い心、また、相手の立場に自分自身を置き換えて、お互いを理解し受け入れ信頼する心です。その心を日本国内はもとより全世界の人々に広めていくことで、様々な社会問題解決と武力によらない世界平和実現を目指します。

JAYCEEとしてのスキルアップ



1、JAYCEEとしての志

①誇りと愛情

ビジョンに向けたまちづくり運動を行うには、茅ヶ崎に、茅ヶ崎JCに誇りと愛情を心がけて活動することが大事です。自らが誇りと愛情をもって活動し、発信することで、周囲へそのエネルギーが波及し、よりよい相乗効果が望まれます。

また、JAYCEEとしての誇りを持ち活動することにより、社会・公に対する倫理観や道徳心を常日頃から意識し、養うことができます。

そして地域への郷土愛や周りの人々に思いやりを持って活動をすることで、まちやそこに住む子供たちの未来がよりよい方向へ進むでしょう。このまちや周囲の人々を想い、すべてのものに対する思いやりを持つて人間として活動します。

②情熱

JAYCEEとして、すべての活動において率先して行動する気概が大切です。そして、その気概から来る「まち」や「人」を想う情熱を燃やすことが活動へのエネルギーになります。その情熱が自分の周りへの奉仕へと繋がり、ひいては自分を成長させる

きっかけにもなります。

2、JAYCEEとしての能力

①率先して行動するリーダーシップ

まちづくり運動を発信する中で、我々は地域でのリーダーとしての自己研鑽に励まなければなりません。優れたリーダーとして明るい豊かな社会を創造していくには、「人間力」を磨き伸ばした個として自立することや、協調性を持って物事を推進すること、見識豊かな人間として成長することが、市民やNPO、行政諸団体と協働関係を築き、まちづくり運動を推進する第一歩となります。

行動力・発信力・指導力等リーダーシップを開発する活動をします。

②活動の基盤を固めようマネジメントスキル

我々JCメンバーはJC活動をする前提として、青年経済人としての能力も兼ね備えなければなりません。メンバー各々の企業を持続、発展させていくには、精神を鍛えると共に、優れたマネジメント能力を身につける必要があります。

また、JCの特性のひとつである異業種交流という点からも情報交換等で優れたアイディアを得られ、広い視野を持って自社の経営を見つめなおすことが出来る環境にいます。

マネジメントを学ぶ機会を積極的に設け、より優れたビジネスリーダーとして活躍する為のスキルアップやネットワークの構築を目指します。

3、JAYCEEとしての知識

①JCに対する知識の習得

我々メンバーはJAYCEEとして共通の認識を持たなくてはなりません。JCという組織の理解、その理解から発生する活動への意欲の為、研修等の機会を設けることで、メンバーとしての意識の共有、方向性の確認並びにモチベーションの向上が図られ、まちづくり団体としての活力ある組織を創り上げることができます。

新入会員研修や基礎オリエンテーション等のベーシック研修や出向を通じ、組織としての基礎力・底力を高めていきます。その成果が、魅力あふれる組織やまちづくり運動を具現化することを目的とします。

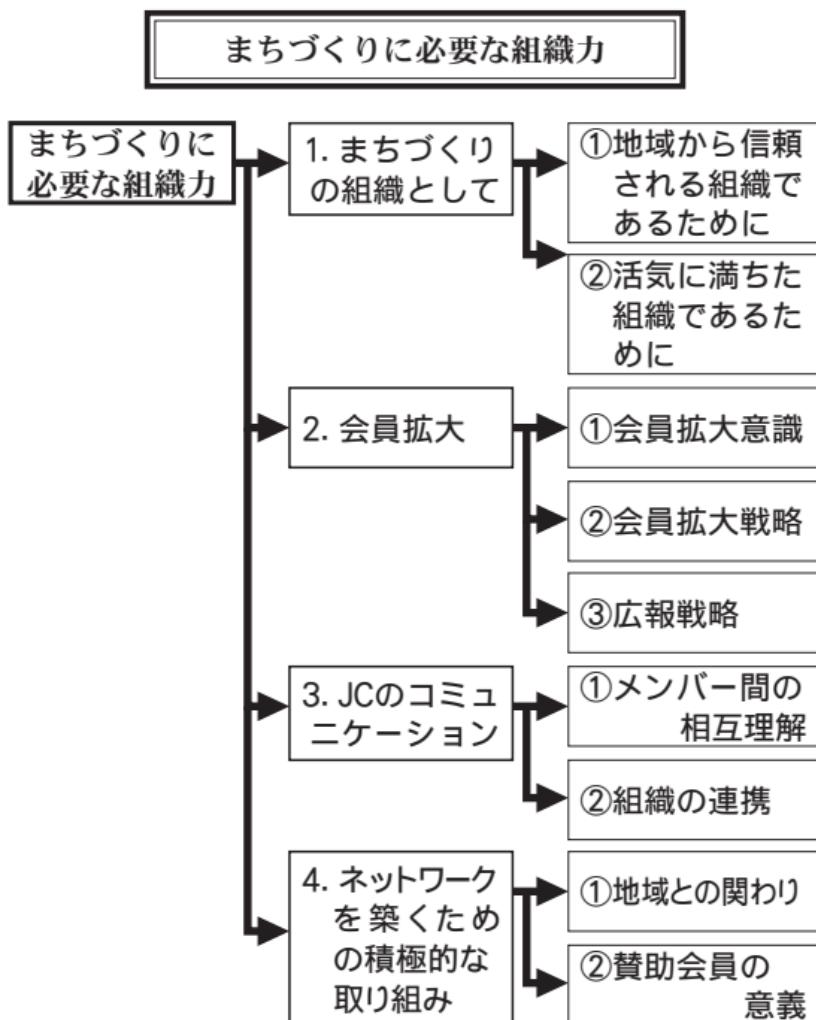
②まちづくりに対する知識の習得

我々はJCに対する理解だけではなく、まちづくりに対しての

様々なノウハウを学ぶことも必要です。また、「まち」に対しての知識の習得も心がけなければなりません。そしてその知識をどう実践に活かすかを考えることが大事です。学んだ多くの知識を知恵へと変えることができればすばらしい活動が展開できるでしょう。

私たちは茅ヶ崎 J A Y C E E として、まちづくり運動の実践のため、誇りと愛情と情熱を胸に、能力や知識を磨いていきます。

茅ヶ崎の伝統、文化、環境、未来のために・・・このまちを想う茅ヶ崎 J A Y C E E であるために。



1、まちづくりの組織として

①地域から信頼される組織であるために

社団法人格を有する団体として、公益性という面からも社会的な信頼がある組織として活動しなければなりません。そのためにも地域での役割を自覚し、メンバー各々の責任を持った行動が求められます。我々が行う各事業についても責任を持ってその意義を地域へ発信することが必要です。内部的にもメンバーが自分の与えられた役割をしっかりと遂行することが、規律と責任ある組織として地域から信頼を得ることに繋がり、メンバーが社会的な責任を自覚して行動することで、信頼ある組織を構築します。

②活気に満ちた組織であるために

J C活動のメインのひとつである例会は、メンバーが一堂に会する貴重な場であり、メンバーであれば出席する義務のある重要な場です。また、メンバーに対して発信の場もあります。そのため、J C活動の活気のバロメーターである点からも内容の充実を図る必要があります。

委員会は委員のメンバーが発言し、理事会等の全体の情報を吸収できる重要な活動であり、それを組織に反映させることが、組織の活力につながります。

例会、委員会の出席率を上げることも重要な課題です。

2、会員拡大

①会員拡大意識

J Cが存続、発展し続けていくためにも、会員拡大は非常に重要なテーマです。茅ヶ崎J Cが茅ヶ崎のためにまちづくりをするには、J Cのまちづくり運動に理解、賛同し、共に活動してくれる人を増やすことが必要です。そのためには、メンバー一人ひとりがしっかりと拡大の重要性について常に意識し、行動しなければなりません。ゲストに対しても、相手の気持ちになって考えるフォローアップを心掛けなければなりません。

②会員拡大戦略

1. 応対マニュアルの活用（牛にひかれて善光寺）
2. メディアの活用（ミニコミ誌、ケーブルTV、地域FM局等）
3. 公開事業等、J Cの魅力が伝わるような事業への取り組み。
4. 毎年、数値目標を掲げる等、進捗がメンバー全員に確認できるような仕組みを作る。
5. シニアクラブ等含めネットワークの活用による口コミによる拡大。
6. メンバーがゲストに対してフォローする意識の向上。

過去に用いられた、あるいは提案された意見に上記のようなものがあります。今後、拡大をするにあたり、このような媒体・手段をよく検討して拡大の戦略を練る必要があります。

③広報戦略

全てのJC運動における基礎は、市民の認知がベースにあります。地域の人々に如何に広報するべきかを考え、活動するべきです。そのためにも、メンバー一人ひとりがJCの広報マンとしての自覚を持つと共に、各メディア、ホームページ等の媒体を活用することが必要です。

また、メンバーにとって一番身近な、家族、企業にまで我々の活動が自然と伝わり、知ってもらえるような広報活動ができれば、周囲のより良い協力者を得ることができ、メンバーの活動意欲を盛上げることにつながります。

3、JCのコミュニケーション

①メンバー間の相互理解

組織を支えて行く基盤になるものは、メンバー間のコミュニケーションです。会議の場だけでなく、様々な交流の場を通じてお互いの価値観、趣味などを話し合うだけでもメンバーの結束は強くなります。組織力充実のために出向することも必要です。シニアクラブとの交流についてもJCの歴史等について話を聞ける大事な機会であり、過去を知り現在をより良いものにしていくこうという視点も大事です。

②組織の連携

青年会議所活動をするにあたり、生活圏を共にする近隣LOMとの組織協力は、様々な利点があります。地域の広域的な問題に対する事業協力や情報交換、合同事業等の組織的な連携が有効な活用方法としてあげられます。

湘南4LOMについても2006年度に湘南4LOMで策定されたビジョン「100万人が誇れる『市民が輝くまち湘南』」を目指し、各LOM間でその有効性を認識しあって、活動していくことが今後も重要です。

また、行政、商工会議所等の公共団体、市民団体等との交流や、日本青年会議所、神奈川ブロック協議会等JCに対して多く出向することで、広い視野での考え方を身に付けたり、様々なネットワークの構築に繋げることが、茅ヶ崎JCの組織力充実のために欠かせないでしょう。

4、ネットワークを築くための積極的な取り組み

①地域との関わり

まちづくりをする団体として、行政、他団体、地域の人々との情報交換や交流の場といったネットワークの構築は不可欠です。ネットワークを構築することにより、茅ヶ崎JCが行う運動の発信や、各種団体との連携を図ることもできます。また、地域に根付いた運動展開や事業を継続的に行うことで、茅ヶ崎JCへの理解を深めることに繋がります。

そのためには、連絡体制、窓口を明確にし、事業参加の案内を継続的に行う必要があります。また、そのような団体から紹介を頂いて、さらにネットワークを広げることも有効です。他団体との協力については、茅ヶ崎JCの事業へ参加・協力をして頂くだけではなく、他団体の事業への参加・協力も積極的に行うべきです。行政に対しては、我々の考える「茅ヶ崎らしさ／ならでは」の確立に障害となる問題点の改善策の提言や、必要があれば共同事業の開催を検討することも重要です。

「茅ヶ崎らしさ／ならでは」を検討する機会においては、行政出向者、他JC組織への出向者等による報告を定期的に行うことや、情報の共有化、『地域』のニーズの確認等を行うことが可能です。

②賛助会員の意義

まちづくり運動、新たなネットワークづくり、広報活動、において、茅ヶ崎JCの運動に賛同し、支援して頂けるような賛助会員制度を設けることは意義あることです。賛助会員の制度について、茅ヶ崎JCがまちづくり運動を展開する上で必要性があるでしょう。

JAYCEEとして切磋琢磨しながら心をひとつにチームワークを築きましょう。茅ヶ崎JCとしてまちづくり運動に「総力」で邁進するために。

あとがき

メンバー誰もがこの行動指針を理解し、茅ヶ崎JCとしての指向性を共有して足並みを揃え、JAYCEEとして、「社団法人茅ヶ崎青年会議所」と「まち」の限りない可能性を自らの手で開きましょう。

目指すべき大きな目的を事業として形にし、更にはその積み重ねをもって茅ヶ崎JCとしての「夢」を発信し実現していくので

す。茅ヶ崎の人々に、愛郷心や道徳心が芽吹き、茅ヶ崎が思いやり溢れるすばらしいまちとなるように。

追 記

- ①この行動指針は3年目に全体的な見直しの検討をし、必要があれば変更するものとする。
- ②行動指針に沿って展開がされているかを以下にて確認し報告をする

【確認】

- ・監事監査による確認
- ・理事会による各委員会の事業計画議題での確認

【報告】

- ・監事監査による理事会での報告
- ・監事による新旧理事会での検証報告

- ③この行動指針は、総会の決議により効力を生じる。ただしメンバーの総意により追加変更することを妨げない。

2007年度 近未来創造特別会議

議 長 島田 貴行

副議長 小林 貢太

幹 事 小川 徹

高原 大壯

委 員 五十嵐 準 松岡 慶純

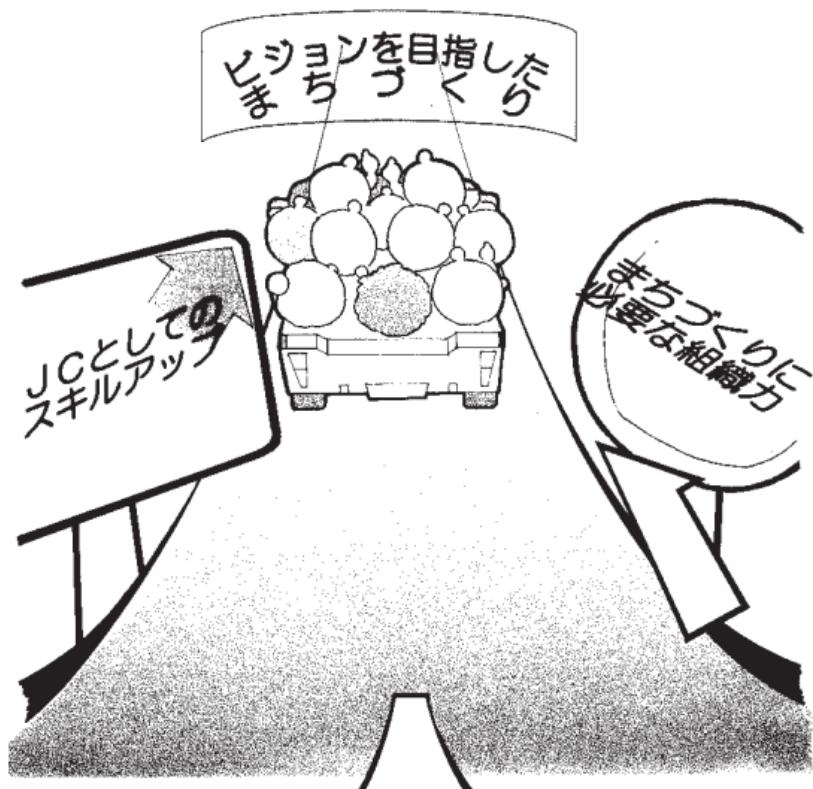
伊藤 俊介 満田 守

大川 晃司 村澤 玄吾

神戸 幸男 山口 輝一

熊澤 茂吉 若菜 嘉樹

深瀬 満



[イメージイラスト]

2008年度 事業計画

2008 年度

会員名簿



みんなが集まる
オシャレな海辺のまち

(社)茅ヶ崎青年会議所

(社)茅ヶ崎JC事務局

茅ヶ崎市新栄町13番29号

茅ヶ崎商工会議所内

TEL 0467 (85) 0212

<取引銀行名> (社)茅ヶ崎青年会議所

みずほ銀行茅ヶ崎支店

(普) 374-1308583

湘南信用金庫茅ヶ崎営業部

(普) 51-0121634

例会場 茅ヶ崎市新栄町13番32号
茅ヶ崎市勤労市民会館6階A研修室
茅ヶ崎市新栄町13番29号
茅ヶ崎商工会議所4階会議室

J C ルーム " 3階
TEL 0467 (85) 0212
FAX 0467 (86) 6663
(月~金 13:30~16:00)

† 名簿記入順序 †

氏名 (生年月日・血液型)

勤務先

郵便番号

住所

電話・FAX

自宅

住所

電話・FAX

携帯番号

E-mail

携帯メール

委員会名

